

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 参番館		
所在地	札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	平成26年11月19日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近所には、歩いていけるスーパーや食堂などがあり、車で5～10分程度の距離には大型スーパーなど生活において必要な物品が揃う環境が整っております。地域に出掛けることを心掛け、一人一人の希望、要望に沿い、入居者様と一緒に買い物や食事などが出来るようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=trve&amp;JigyosyoCd=0170503544-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=trve&amp;JigyosyoCd=0170503544-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の介護理念にも、地域密着を掲げており、職員一人ひとりが、その理念を心掛けて、仕事をしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の散髪屋さんや大型スーパー、食事処などに行く事で地域との関わりを持ち、地域にも理解をお願いしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学校の実習やボランティアに来た方などに出来る限り深く認知症の方の事を理解して頂けるように、努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様や入居者様のご家族、地域住民の代表者の方などに、2ヶ月に1回程度報告し、評価や要望などを聞きサービス向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況や事故についての報告など密に連絡が取れるように取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人における虐待防止委員会に事業所の委員が参加し、委員会での伝達事項を報告するなど、事業所にて身体拘束の無いケアに取り組んでいます。日中は玄関の施錠をしないようにするなど防止に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人のコンプライアンスを壁に提示しており、その記載の中においても虐待の定義などを示している。また虐待防止委員会や管理者会議における報告など全ての職員に伝える事で、虐待の防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束委員会からの資料や勉強会を通して学んでいます。成年後見人制度を使われている入居者様もおられ個々の必要性を話し合い支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学や、入居の契約の際不安や疑問に思っている事等を確認し十分な説明、理解、納得をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様がいらした際には、入居者様の近況について、伝え、要望や疑問が無いかを確認し、出来る限りのコミュニケーションを取り信頼関係を築けるように心掛けています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一度会議を行い、職員からの情報、意見を聞き話し合う機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で管理者や職員個々の努力、実績、勤務状況を把握し管理者会議等での議題としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内においての研修、外部研修、各委員会活動、管理者会議などを行い職員一人ひとりの力量に合った、トレーニングや育成に心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部外などの研修会などに参加する事で他の同業者とのネットワークづくりの活動を通じてサービスの向上を心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話を聞き、その方の為になることが出来るように勤めている。ご本人様の訴えや要望など聞いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様、成年後見人、知人の方などともコミュニケーションを取り触れ合う事で、要望や困っている事などがあれば、聞いたり対応、信頼関係を築けるように勤めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の職員と相談しながらその人に合った支援が出来る様検討、実施するよう勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人に出来る事を判断、考慮し、職員と一緒に出来るように支援している。その人の役割をすることで、充実した日々を過ごして頂きます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その人の普段の様子や状況、要望などの情報を正確に家族に伝え、現状を把握して頂く事でより良い関係を築けるよう、勤めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様やご家族からお話を聞き情報を集める事で馴染みの人や場所などを把握し、出来る限り関わっていくことが出来る様勤めています。知人が来訪する利用者もおり、電話や手紙のやり取りも支援しています。囲碁や将棋などの継続している方もおり馴染みのスーパーやラーメン店に出掛ける方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士良い関係を築く事が出来るように支援しています。入居者様同士が言い合いになった場合職員が間に入るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による契約終了の際には職員でお見舞いに行くなどし本人、家族のフォローなど相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、家族からの相談には速やかに対応し本人の思いや希望に耳を傾けています。希望を言葉で表現出来る方は少なく生活歴や家族からの情報をもとに、意向を把握しています。センター方式のアセスメントシートを3ヶ月毎に更新し情報を蓄積、共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、ご本人様の聞き取りのほか家族からお聞きするなどして生活歴を把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で入居者様の現在の状態を把握し記録や申し送りなどによって職員間での情報交換を大切にしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の活用やケアプランの実地状況により一人一人の過ごし方を把握し会議を行い、より良く暮らす為に現状にあった介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施状況は記録し職員間の情報交換に活用して介護企画の見直し検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望に応じて信仰する宗教の教会に出掛けたり、食欲がなくなっている入居者様には大好きなお寿司を食べに行くなどの外出を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、理美容室、食堂、病院などの地域資源を活用し入居者様に楽しんで頂けるように支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を主に活用しており、急病時などには適切な医療を受けられるように、入居者様やご家族様の希望に基づいて実地し、かかりつけ以外にも受診を行うなどもしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診日の前日看護師と連絡を取り入居者様の状態を報告している。体調が優れない際は、連絡し訪問看護師等に相談し緊急の往診や薬の処方をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も一人ひとりの病歴、薬などの記載したファイルを持参しています。病院関係者と情報交換や相談がスムーズに行えるように取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期が近くなられた際には、終末期のあり方について、家族、医師、施設との話し合いを行い入居者様の思いに添えるように支援、取り組みを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDを設置しています。事故発生時に備え施設にての研修やその他の研修等にも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実地、スプリンクラーの設置、緊急通報システムの登録を行い災害時の備えや、地域との協力体制を築いています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の居室に入る際には、何の用事で入るのかを伝え、お断りしてから、居室に入るようにしています。笑顔で、優しい声掛けを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身より、希望を言われる入居者様は、一部の方のみですが、希望を伝えられない入居者様には、その時々の中より希望する物、好みを知り、必要に応じて購入する物を入居者様と共に出掛けたり、外出など楽しんで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴以外は、居間でテレビやDVDをご覧になったり、居間ソファで仮眠されるなど、自由に過ごして頂き、家事のお手伝いをされたり、食事に関しては、居室内で食事を摂るなど希望に沿うよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、お昼寝後には、必ず整髪を整え化粧水やクリームなど使われている方には、使える支援をしています。服や靴、下着などを買う際には、職員と一緒にいきご本人が気に入った品物を購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来るもやしのひげ取り、皮むき、お膳食器拭き、準備や盛り付けなど、一緒に行い役割を持つことで一人ひとりの力を活かすことや、皆と行う楽しみを支援しています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の、栄養バランスやその都度の水分摂取も徹底しています。嚥下の悪い方には水分や食事を食べやすく工夫しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて、口腔ケアを行っております。一人で出来ない方には、見守りや、介助にて行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人に合った排泄パターンでのトイレ誘導やトイレ内での排泄を促しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの、排便周期を常に記録しており、便秘気味の方には、ヨーグルトなど摂取して頂いています。お買い物などにお誘いし、運動不足を解消して頂く目的も兼ねています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に二度入浴をされています。入浴介助の必要性がある方が多い為入居者様と職員のタイミングの良い日を選び入浴を行っています。お風呂の好きな方には、外の大浴場にお誘いしリフレッシュして頂いています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力の低下されている方には、午前、午後の二度居室にて休まれる時間を作り、横になって頂いています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が取り出せる場所に個人ファイルを置き、病気や薬など詳細がわかるようにしています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割やお手伝いを職員と一緒にされています。その方に合わせた気分転換や楽しみ方を支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ほぼ毎日、近所のスーパーへ入居者様と買い物に出掛けています。個々に月に一度の割合で目的に合った場所へ気分転換を兼ね外出行事を設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持能力のある方は少なく、所持出来る方に関しては、ご家族様と相談し、使い過ぎないように声掛けしながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時には職員が付き添い、一階公衆電話を使って頂くように。支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア全体に、季節感を感じられるように、季節ごと入居者様と職員で壁飾りなどを手作りするなど、楽しみながら、心地良く過ごせるように、工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で気の合った方同士お話をしたり、テレビを観たりお手伝いをされたり、ご自身がされたい事を各自できるように、支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人様が使い慣れた家具などを使う事で居心地良く、安心して過ごして頂けるように心掛けて居ます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、手摺りの設置、トイレ入口には、案内版を手作りし、分かりやすいようにしています。		